

トップコミットメント

Top Commitment

常に新しい価値を創造し、社会の発展に貢献し続ける企業を目指します。

「0→1」を生み出すカシオのDNA

カシオ計算機は1957年の世界初の小型純電気式計算機の発明によって創業しました。この計算機は、当時の常識を覆す圧倒的な性能で瞬刻に市場を席巻。「0→1」を生み出すカシオのDNA、最初の発露でした。以後、1972年の世界初のパーソナル電卓「カシオミニ」の大ヒットは、高価な「計算機」を身近な「電卓」に変え、デジタル時代の幕開けに大きく寄与しました。また、「壊れない腕時計を作りたい」という、当時としてはまったく常識外れの発想から生まれたのが、1983年の耐衝撃腕時計「G-SHOCK」です。そして「フィルムのいらない普及用デジタルカメラ」として生まれた1995年のコンパクト液晶デジタルカメラ「QV-10」など、今では当たり前のように身の回りにある製品ばかりですが、発売当時には前例のないものをカシオは生み出し続けてきました。



こうした画期的な発明品を次々と世に送り出してきた歴史は、パラダイム・シフト（発想の転換）をテクノロジーで裏付け、既存概念や既存技術のブレイク・スルーを繰り返すことでつくられてきたのです。またこの他にも、カシオは既存製品の事業から新しい事業展開を引き出すための、製品の「再発明」にも取り組んでいます。カシオは従来にないまったく新しい製品やサービスを開発することで新しい価値を世の中に提供し、それによって人々の生活を便利で豊かなものにしてきました。そしてその価値が世の中に認められることによって新しい市場が生まれ、新しい文化が生まれます。これがカシオの経営理念である「創造 貢献」の実現に他なりません。カシオは従業員の一人ひとりがこの経営理念の実践に努め、「0→1」を生み出すことによって社会の発展に貢献し続けてまいります。

国際的イニシアチブへの賛同とCSR経営の推進

一方、こうした事業を通じた社会貢献以外にも、カシオは社会・環境課題の解決を通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。カシオのコア・コンピタンスである小型化・軽量化・薄型化・省電力化の技術によって製品の環境負荷の低減に貢献するだけでなく、温室効果ガス排出削減を目指した中長期目標をはじめとする事業所の運営や、生物多様性保全などの環境活動の推進によって、環境へのマイナス影響を抑制し、プラス影響を増加させ続けるよう環境経営を徹底しています。

カシオ製品はグループ内だけではなく、国内外を問わず多くの部品メーカーや製造委託先企業のご協力によって作られ、世界中の流通を通じて、年間1億台以上の製品が世界140カ国に販売されています。このようにカシオがグローバルに事業を推進していく上では、人権・労働・環境・腐敗防止に関して、国際的に認められた規範を遵守し、社会的責任を果たしていくことが不可欠であり、それが国際社会の持続的発展につながると考えています。

こうしたことからカシオは、2010年には国連グローバル・コンパクトに署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」から構成される10原則の支持を宣言するとともに、企業活動全般に取り入れています。また、2010年11月に発行された社会的責任に関する国際ガイドライン規格「ISO26000」を基準として、国内外の全グループ企業を対象としたCSR課題の棚卸しを行い、抽出されたCSR課題の解決に向けてステークホルダーとの対話を実施するなど、CSR推進の手引きとして活用しています。さらに、GRIガイドラインを参考にして開示項目を選定、充実させることで、国際社会の要請に応える内容を備えたCSR経営の推進に努めています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方沿岸部への津波被害や福島第一原子力発電所の事故など、壊滅的な被害をもたらしました。以来1年以上経過した現在も復旧・復興は思うように進まず、いまだに苦しい避難生活を余儀なくさせられている被災者の方々が
大勢いらっしゃいます。カシオは、現地のニーズを的確にとらえた長期的な支援を今後も継続して実施してまいります。

本レポートでは、2011年度における主な取り組みをご紹介します。是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。皆様方の貴重なご意見を、今後の取り組みのレベルアップにつなげてまいります。

代表取締役社長

梶尾 和雄

Kashio Kazuo